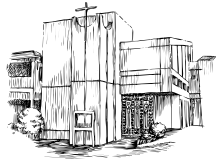


日本聖公会

大阪教区報



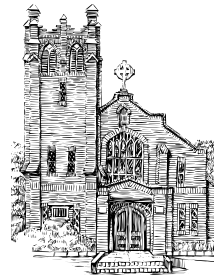
高槻聖マリヤ教会



聖ルシヤ教会



富田林聖アグネス教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8

TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097

発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第508号 2023年3月20日発行 +++++

気になる木になる大きな実

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

1月の第4主日だったと思いますが、大阪聖愛教会の庭になっているグレープフルーツを有志の方が収穫してくださいました。丸々としたグレープフルーツです。本来グレープフルーツの原産地は亜熱帯ですから、日本で育つグレープフルーツは積算温度が足らずに小ぶりのものしかできないそうです。にもかかわらず、毎年大ぶりのグレープフルーツにお目にかかれるのは嬉しい限りです。

植えるでもなく、気がつくとか何かの芽がでており、やがて教会の気になる木になっていったそうです。長い年月



聖愛教会を含め、大阪教区内のいくつかの教会にはグレープフルーツの木が生えており、これらの木には共通の親木があります。高槻聖マリヤ教会の敷地内、教会建物の裏にある大きなグレープフルーツの木がそれです。2002年1月に急逝した小川博司司祭が、生前「サンタマリア」と命名されたそうです。サンタマリアの木は誰が種を

実を付けなかったのですが、ある年から大きな実がなり始めました。そこで、京都大学の専門家に鑑定を依頼したところグレープフルーツとの結果だったそうです。その後、近畿大学に依頼してサンタマリアの木から苗木が作られ教区内の教会に贈られました。その一つが聖愛教会に植わっています。

なぜ大阪に、しかも府内で

も特に気温の低い高槻の地に、グレープフルーツの木が自生したのか答えは分かりません。仮に鳥が運んできた、もしくはご近所の方が種を飛ばしたのだとしても、育つ見込みは薄く、ましてや大きな実が成る可能性など皆無でしょう。只々、神さまのなさることは不思議だ、と想うばかりです。そういえば、とふ

と想います。なぜ私が信仰を持ち、そして持ち続けているのかその理由ははっきりしません。これが聖霊の導きのかな、とも想います。

「あなたはメシア、生ける神の子です」と告白したペトロに、主イエスは「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」と諭されました。信仰もまた神さまからの贈り物なのです。キリストに出会えたこと、信じる道が示されたことに感謝です。し、神さまから大切にされているな、と感じます。だからこそ戴いた信仰を大切にしたいです。様々な方法でもって誰かに手渡すことができればな、と想うのです。あなたは神さまから大切にされている存在であり、多くの人から大切にされるべきいのちだよね、と。

(大阪聖愛教会牧師・聖ガブリエル教会管理牧師)



『杖ひとつ』

「大切な居場所」

大阪聖三一教会

ハンナ

みぞべ 溝辺

きよこ 清子

静けき夕べの調べによせて
歌わせたまえ父なる神よ

(2・3節略)

鳥はねぐらに人は家路に
帰る夕べはいと静かなれ
神よこの世の旅路終わらば
わがふるさとに憩わせたまえ

この聖歌33番は夕拝用のため減多に歌う機会はありませんが私の好きな聖歌の一つです。略した節も心にしみ、曲も揺りかご調のリズムで癒されます。そして人生の黄昏時を過ごしている今改めてこの歌詞を味わっております。

年明け間もないころ、新聞の読者の声欄に 今春開設される政府の「子ども家庭庁」に期待し 人生の幸せは「自分の居場所のあること、ことに子どもにとっては、信頼できる大人」の待つ帰っていく所のある事」という趣旨の投書がありました。
行ってらっしゃい、と送り出され、その日に出会うことを体験し、ある時は明るく、

ある時は重い気持ちの、ただいま、そして返ってくる、おかげで、それは子どもも体とも心に心の大切な居場所だと思えます。就労で親が家で子を待つことが難しい昨今の家庭に代わりそれが施設であっても。

齢重ね一人暮らし長い身ですが、今住むマンションの玄関を開けると、センサーでぱつとつく明かりがお帰りと言ってくれるようで、ゆつくりと ハイタダイマ と答えつつ部屋に入っていく私です。

神様のみ許からこの世に送り出されそれぞれの様々な道をたどり、やがて導かれ召されて帰っていく所、そこそが私達の真の居場所となることを思い、いつの日か、いえずからず来るその時にみ前にどう、ただいま」と言えるか自省しつつも、今与えられ守られている日々を感謝しつつ過ごしたく思うものです。

礼拝・音楽委員会主催

教会暦と聖歌Ⅰ「大斎節の学び」報告

マリヤ 小野田 富美子

まだ風の冷たい2月25日

(土) 川口基督教会聖堂にて、教会暦と聖歌Ⅰ「大斎節の学び」を開催しました。礼拝・音楽委員会主催の学びは、久しぶりの開催となりましたが、聖職者を含めて38人の参加があり、共に恵みの時を過ごすことができました。神さまに感謝いたします。

昼の祈りをお献げしたあと、学びを始めました。講師の内田望司祭はご自身で準備されたレジュメに従って、



とても分かり易くお話しくださいました。大斎節に因んだ聖歌をたくさん(9曲)歌いながら進められたことで、内容がスムーズに心に届きました。聖書箇所も読みつつ参照しました。まず、大斎節は「レント(Lent)」と言われるが、ゲルマン語で「春」の意味があることや、降誕日は固定祝日であるのに対して、復活日は移動祝日であるとの説明がありました。

前半では、聖歌12番の1番から6番までの歌詞に従ってのお話でした。この聖歌の作詞は森紀巨主教で、大斎節のすべての意義が込められているのです。後半には、復活日に至る6回の主日の意味を福音書から学びました。特に大斎節第3、第5主日A年の福音書を朗読しましたが、洗礼の神秘を表している箇所でした。改めて洗礼によってキリストの命に贖われ生かされている私たちであることを感じました。そして聖週に入り教

会暦の頂点にあたる「聖なる3日間」を迎えます。まともとして、「大斎節を失うことは一年を失う」「大斎節は自分の中の闇を見つめつつ、光に向かつて歩みだす時」と結ばれました。備えのための良い学びができましたことを感謝します。尚、今回、あまり歌われていない聖週の聖歌も歌いましたが、良い歌が多いので、歌詞をよく見て是非大斎中に歌ってくださいとのことでした。



今回の学びは、教会暦と聖歌Ⅱ「降臨節の学び」を11月に予定しています。
(礼拝・音楽委員会委員長／大阪聖アンデレ教会信徒)

解説・宣教協働区・伝道教区とは？

―法規改正後の動き―

⑥

2020年の法規改正後、3つのエリアのうち、特に東日本宣教協働区では新制度に関連する具体的な動きがありました。以下はその経緯と現況です。

△北関東教区のケース▽

北関東教区は、2021年3月の広田勝一主教退職に先立って、2020年11月の教区会で伝道教区になることを決議されました。教区としては比較的余裕のある中で決断でしたが、主教会が提案し日本聖公会総会が承認した教区再編の方向性に強く共感したことから、教区主教の定年のタイミンングであったこと、の2点が主な理由です。

2022年、日本聖公会第66（臨時）総会での承認を経て、東京教区・高橋宏幸主教が管理主教になられ、「北関東教区・東京教区 これから

の歩みに向けて」の共同声明が発表されました。伝道教区を選択された北関東教区の思いに東京教区が賛同し、一方が吸収される形での合併では

なく、5年後の新しい教区設立を目指した歩みが両教区で展開されています。

主だった協議は「東日本宣教協働委員会」の分科会の場で行われていますが、覚書の締結と「宣教協働特別委員会」

の設置を求める議案が、2021年11月の両教区・教区会で承認され、宣教協働、組織、財政、広報の4つの小委員会が活動を始めています。機密性の高い情報に接する可能性があることから、特別委員会のメンバー全員が秘密保持の誓約書を交わして対応。両教区の成り立ちと、これからのテーマにした絵本やパンフレットの作成、合同礼拝や合同教役者会の実施などを通して一体感を高めることに努めておられます。ただ、当初

2022年11月の両教区会で承認を求める予定だった「新教区設立を推進することの可否」議案は、コロナウイルス蔓延の影響で十分な話し合いの機会が得られなかったため、審議の1年延長が両教区

会で可決されたところです。

△北海道教区のケース▽

2022年3月に植松誠主教の定年退職を迎えた北海道教区では、2021年11月に次期主教の選挙が行われ、東京教区の笹森田鶴司祭を選出。2022年4月、東アジア最初の女性の主教の誕生につながりました。

伝道教区を選択せず主教選挙を実施することになった理由として、伝道教区制等について十分な説明を行う時間的余裕がなかったこと、後継主教を選出した後に必要な時間をかけて将来的な教区再編に備えていく、の2点が挙げられています。

△東北教区のケース▽

東北教区は、2023年3月末で吉田雅人主教が定年退職されることから、2022年11月3日の臨時教区会で主教選挙が行われ、第1回の投票で長谷川清純司祭が選出されました。4月22日に按手式が予定されています。

当初は、法規改正を受けて「伝道教区に移行する」ことへの同調が大勢を占めていたようですが、4度の研修会やアンケート分析を通して協議

を重ねるうちに、「宣教協働体制強化」のために、徐々に「教区主教選出」へと意識が変化してさうです。

判断の根拠として、①伝道教区移行への共通理解は未だ十分ではなく、不安をもったままでは協働する相手教区に「依存・依拠」してしまう怖れがある、②歩むべき道は、自教区から選出した新主教のもとで信徒・教役者が時間をかけて宣教協働を検討すること、③相互の協働教区に主

教がいる方が、教区再編を考える上でバランスがとれる、などが挙げられました。

このように、東日本宣教協働区に属する4つの教区の動きは、一見すると二手に分かれたように見えますが、20

22年11月の北海道と東北教区の定例教区会では、両教区の宣教協働と教区再編を策定するタスクフォース（期間1年）の設置を求める議案が同じ内容で上程され、満場一致で可決されました。将来的には北海道と東北教区は一つになることを目指して、新たな取り組みに着手されたと言えます。

中日本および西日本宣教協働区についても、2025年には大阪教区と九州教区、2026年には京都教区、さらに2027年には横浜教区で、それぞれ主教が定年退職となれることから、今後の動きを注視していかなければなりません。

（常置委員会）

聖週のご案内

4月6日(木) 17:00 聖木曜日礼拝

聖油聖別・司祭接手の約束の更新&聖餐制定の聖餐式

司式・説教 磯晴久 主教

4月7日(金) 12:00 聖金曜日

主の御苦しみの黙想と陪餐

司式 磯晴久 主教 説教 金頭昇 司祭

(受難福音の立体朗読)

主催… 主教座聖堂参事会
場所… 川口基督教会



冬ふゆの曇り空で底冷えする中、2023年2月2日(木)午前10時半から大阪城南キリスト教会で大阪教区婦人会被献日礼拝は開催されました。司式は磯晴久いそはるひさ主教、説教は恵我之莊聖マタイ教会牧師、金山将司かなやまさし司祭が担われました。

金山司祭は被献日とは何か、基本からお話され、イエス様が

ス様がお生まれになり40日目の今日、律法に従いマリアの産後の清めと長子たるイエス様を神殿に奉献した日で、その時シメオンとアンナという男女の預言者が、「この子は万民のための救い主である。」と宣言し、救い主の到来の喜びを叫んだ。マリアとヨセフはどんな思いでこの知らせを聞いたでしょう。救い主到来を感謝しながらも、母としては、わが子が万民を救うためとはいえ、さながら祭壇にささげられる生け贄のような歩みが始まり十字架まで続くのです。

マリアは天使ガブリエルから聞いた受胎告知の戸惑いと合わせ、イエス様の定めを受け入れる覚悟を決めたのです。

被献日を日本聖公会婦人会の創立記念日と定めた1926年から毎年被献日献金は日本聖公会婦人会に集められ、婦人伝道師の育成、現在では男女問わず神学生、聖職候補

生なまの学びのため等に用いられます。今年の被献日献金は149,130円でした。出席者は教役者8人、信徒64人でした。

大阪城南キリスト教会の皆様への準備やおもてなしに感謝致します。
(川口基督教会信徒)

大阪教区婦人会被献日礼拝

モニカ いまにし 和子 かずこ

日本聖公会 大阪教区
教区成立 100 周年記念

大阪教区 子ども礼拝 キッズフェスティバル きみがスキだって! 2023

2023年 4月29日(土・祝)
会場 大阪教区 川口基督教会
時間 10:00~15:00 (受付 9:30~)
持ち物 おにぎり・飲み物

今年は、ザアカイのお話。イエスさまがザアカイを訪ねてくれました。ザアカイの心は変わりました。イエスさまがザアカイの友だちとなってくれたのです。
どんなお話かな?楽しみに来てね。



「人の子は、失われたものを探して救うために来たのである。」(ルカによる福音書19章10節)

●問い合わせ・参加申し込みはこちら
TEL / FAX 石橋聖トマス教会 06-6854-8657
E-mail kyoukukids@gmail.com
(担当:子どもプロジェクト 斎藤みち)



公 示

救主降生 2023年2月24日

日本聖公会大阪教区 教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

下記のとおり、人事異動を発令します。

司祭 ジョイ 千松 清美
2023年3月1日付
石橋聖トマス教会牧師、東豊中聖ミカエル教会管理牧師への復職を命じる。

司祭 テモテ 内田 望
2023年2月28日付
石橋聖トマス教会、東豊中聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。

川口基督教会 550-0021 大阪市西区川口1-3-8

地下鉄/中央線又は千日前線で「阿波座」下車。
⑦号出口(西郵便局横手)より徒歩7分。
バス/「大阪」駅より「天保山」行(88)で「波屋橋」経由にて「川口1丁目」下車すぐ。
駐車場がありませんので、地下鉄、バスをご利用下さい。

主催 日本聖公会 大阪教区 宣教局 生涯学習委員会



教区成立100周年記念事業
準備委員会からのお知らせ

*記念聖句「主を喜び祝う
ことこそ、あなたたちの力の
源である。」ネヘミヤ書8-10f

1. 記念礼拝

日時 2023年6月11日

(日) 10時30分

場所 プール学院メアリー
ズホール

*子供たちの礼拝参加を企画
しています。たくさんのお
子さんの参加をお待ちしま
す。

*久しぶりに教区聖歌隊が編
成され、礼拝に参加します。

*台湾聖公会からのお客様が
参加されます。

*礼拝後に「ソウル教区合唱
団」のコンサートを予定し
ています。

2. 記念連続セミナー3回
予定

①2023年4月23日(日)

「大阪教区信徒の皆さん
への手紙Ⅰ」教区100年の歩
みについて

②2023年5月27日(土)



「大阪教区信徒の皆さん
への手紙Ⅱ」教会・学校・
施設の活動状況について
③2023年7月頃

「大阪教区信徒の皆さん
への手紙Ⅲ」これからの歩
み、教会が大切にしてい
くこと

3. 教区成立100周年記念誌を
発行します。

*記念礼拝までに完成するよ
う、作業を進めています。
4. ビジョン、テーマを検討
中

*大阪教区のこれからの歩み
に向けたビジョンを、皆さ
んと一緒に考えます。

「大阪教区信徒の皆さんへの手紙」

大阪教区成立100周年を迎え、連続性のあるセミナーを、当該年の2023年1年間を通して開催します。情報は教区報、ホームページなどで随時更新いたしますのでお見逃しなく

第1回 「大阪教区信徒の皆さんへの手紙Ⅰ」

100年の歩み ～大阪教区の歴史を主に宣教の歩みを振り返る

日時 4月23日(日) 午後3～5時、川口基督教会

講師 やまもとまこと 山本眞司祭、にしぐちただし 西口忠氏、すぎやましゅういち 杉山修一司祭、他

第2回 「大阪教区信徒の皆さんへの手紙Ⅱ」

現在の状況～宣教の実りとして与えられた教会、学校、病院、社会福祉施設などの今の現状と教会・学校・社会福祉施設の関りなどを対談

日時 5月27日(土) 午後2～4時

場所 未定(調整中)

パネラー ながの やすのぶ 長野泰信(博愛社理事長)、みやじまこと 宮島眞(桃山学院チャプレン)、
そばがきかずや 側垣一也(三光塾理事長)

第3回 「大阪教区信徒の皆さんへの手紙Ⅲ」

これからの歩み～大阪教区が大切にしていけること～ランベスコール、100周年を迎え再スタートする大阪教区のビジョン

日時 未定

講師 未定

大阪教区関係教役者 4月逝去者記念聖餐式

4月12日(水) 10:30~

- 1日 執事 中西 義之 (1909)
- 4日 主教 ジョン・マキム (1936米)
- 6日 司祭 ミカエル 村岡 明 (2019)
- 7日 司祭 ジョージ・ウイリアム・ローリングス (1933英)
- 司祭 名出 武 (1945)
- 15日 伝道師 織間 小太郎 (1934)
- 司祭 ベニヤミン 池沢 駿太郎 (1956)
- 司祭 ペテロ 藪本 竹次 (1979)
- 司祭 ジョン・キャメロン・マクドナルド (1993加)
- 17日 司祭 パウロ 藤倉 恒雄 (2001)
- 20日 宣教師 メアリー・ジェーン・オクスラッド (1922英)
- 司祭 ステパノ 井上 俊一 (1983)
- 21日 宣教師 エレノア・メアリー・フォス (2002英)
- 23日 司祭 早川 喜四郎 (1943)
- 28日 主教 ジョン・チャールズ・マン (1967英)

*説教者：司祭ジョージ林正樹
 *教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分
 から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかか
 わらず、どうぞ自由にご参加ください。

- 2日 高槻聖マリヤ教会
- 9日 聖ルカ教会
- 16日 大阪聖アンデレ教会
- 23日 大阪聖パウロ教会
- 30日 守口聖オーガステイン教会

主教巡回予定(4月)

- 大阪聖アンデレ教会
ミリアム 諏訪部 恭子 (1月6日・78歳)
- 石橋聖トマス教会
ヒルダ 茂木 信子 (2月6日・86歳)
- 魂の平安をお祈りします
- 川口基督教会
ヴェロニカ 社領 文子 (1月4日・89歳)
- ヨハネ 中川 正信 (1月27日・96歳)
- ハンナ 木下 悦子 (2月4日・83歳)
- ルデヤ 横内 洋子 (2月7日・81歳)

逝去者

- 大阪聖愛教会
テレジア 加納 正恵 (1月2日・92歳)
- カタリーナ 清水 雪江 (2月6日・89歳)

お詫びと訂正

○6頁 教区関係逝去者
 (誤) 17日 木川田一郎主教
 (正) 18日 木川田一郎主教
 お詫びして訂正致します。

編集後記

大阪教区が今年には100年の節目を迎えることもあり、今月号もたくさんの記事をいただきました。今年のお大阪教区報は、100周年に関する祝いや学びの記事をいただき、また伝道教区制度をはじめ、教区の未来に関する記事を掲載する予定をしております。ぜひ大阪教区のこれからの取り組み、心合わせて100年をお迎えできますよう教区報をご活用いただければ幸いです。



【常置委員】報告 2/9(定例)

I. 主教報告及び諸報告

【主教報告】(2月6日) 8日・於高知)

・今年度、聖公会神学院に一人が入学予定。

・東京教区・牛込聖公会聖バルナバ教会は閉じられ、管区事務所となった。以前の管区事務所は「神楽坂NSKKビル」として事業化される。

・ナザレ修女会の解散で中断していたウエハースの作製

は、4月以降に再開の見込み。

II. 協議事項及び主教諮問

*台湾聖公会とのズーム会議に主教が出席。

*教区100周年記念礼拝に台湾から約30人の訪問団が参加。また大韓聖公会からはソウル教区男性合唱団が参加予定。

*主教から提示された人事案を承認した。

*第130(臨時)教区会後に開催する懇談会について協議した。

*伝道教区移行の選択肢、および中日本宣教協働区における今後の協働に関して、3月2日(木)に臨時常置委員会を開催して協議すること。

*富田林の教区住宅の件で協議。

*教役者の休職期間給与について、ルール作りを始めることを確認。